



# おかむら通信 第104号



平成25年12月

皆様、12月に入り、体調はいかがですか？

最近思うことがあります。目に見えないものについてです。みなさま、ここで、目をつぶって耳を澄ましてみてください、ふと自分に返って、、、。人それぞれの環境の中、仕事の中、家に帰って、別々の活動の中で、何かを、感じませんか？ これからの自分についても。

病気にたとえば、沈黙の臓器といわれる肝臓・腎臓・膵臓は、最初のころは、何の症状もなく、しばらくはジ——ッ と耐えてくれていて、よほど悪くなってから人間が考えた検査というものに引っかかってくる。人間ドックや一般の検診でよく見逃す代表格です。つまり目に見えないところで、病気は発症し、進行し、のちほど発見されるのです。

院長のこだわり、すこし偏った意見を言わせてください。

## i) 心と病気 について

自分の心が自分の病気にどれだけ影響を与えるか？ということです。前向きな気持ち、人を信ずる気持ち、みんなの力を借りて人に任せる気持ち、に対して、理屈っぽく、小さなことにこだわる気持ち、自分の枠からはみ出すことができないでいると、物事が良いほうへ進む可能性は少なくなるようです。

## ii) 人と病気について

ご自分の周りにいる人々の影響が大ということです。優しい心で見守ってくれる方、ともに辛さを分かち合ってくれる方がいるといないとでは大違いです。つまり病気とは一人で治すのではない、ということです。

医療機関なら受付・医療補助さん・看護師・レントゲン技師など院内で働くすべて、そして皆様を応援する家族、友人の力により、小さな奇跡が起こることはそう稀ではありません。病気については、人に頼っていいのです。

## iii) 当院の考え方

とにかく患者さんと理解しあいたい。一緒にがんばりましょう。

私たちはよくしゃべります。すこし聞き耳立ててください。言葉尻がきつい時があるかもしれませんが。どこの医療機関よりも徹底して皆様に病気のことをわかっていただき、長生きして、寝たきりにならないで、生きがいのある人生を生きていただきたいのです。





iv) 病気とはなんでしょう

大概是、急に起こる病気は存在しない、と院長は思っています。

事故や天災、人災（戦争、殺人、恐喝などから生ずる精神疾患）を除けば。がんですさえ、発生は、何十年もまえから存在し、検査や肉眼で見えるころは、がんの一生ではもう末期なのです。脳卒中、発がん、下肢動脈閉そく、肺気腫、腎不全、慢性肝炎、肝硬変、高血圧、糖尿病などは発症前から予測する努力が必要です。いままで日本では、症状が発現し、患者さんが苦痛を訴えて、苦痛を訴えた患者さんを医師が診て、初めて医療を開始してきた歴史があります。

v) 先手をうつとは

以上のことから、当院では、症状のない時から、どうにかして、どんなに小さな予兆でも見逃さないように全力で発見する努力をしてくれているのです。

vi) 神経ブロックを受ける方が増えてきました。

当院ではたくさんの神経ブロックをしています、「硬膜外神経ブロック」が増えてきました。点滴をし、ベットの上で長らく横になっていただき、麻酔の影響をしばらく見させていただいています。時間がかかる治療です。看護師がつききりになることも多いのですが、みなさん、遠慮なく治療を受けてくださいませ。これも当院の医療に対するこだわりの姿勢の一つです。

vii) ITネット 再び、

来年の4月頃には、一般の薬局でも使えるようになります。千葉県内のことです。

viii) 肺がん検診について

院長の意見です。松戸市内の医療機関ではほとんどが旧来の診断装置で胸部X Pを撮り、松戸市医師会と行政が、毎月何千枚ものフィルムを必死に読影していますが、どうしても、がん病変を見落としてしまうことがあります。人間がやることですから。しかし時代が変わって、欧米、韓国ではコンピュータをつかったCR (computed radiography) 診断装置が普及し、今ではほぼ常識になっています。画像撮影の失敗はほとんどなく、コンピュータ上で（当院ではPACSを用いています。）あらゆる条件で病変を探ったりすることも可能です。たとえば、一般の乳がん検診、胃がん検診にも言えることですが、より先進的な医療機器を備える努力が全医療機関に求められていると考えます。

11月の活動紹介

- /7 (木) NTTDMCS・BML関係者来院、
- /16 (土) 夜間小児急病診療所にて診療
- /19 (火) 松飛台小学校就学児健診

104号担当は古谷です。

12月に入り、今年も残すところあと1ヶ月となりました、皆さまはどんな1年でしたか？これから年末に向けて何かと忙しくなりますが体調をくずさないようにして下さいね。

